

ゼロカーボン

■ゼロカーボンシティ宣言

3月22日、市は「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。この宣言は、「市民・事業者・行政が協働して地球温暖化対策を進め、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すこと」を掲げ、あわせてにかほ市地球温暖化対策実行計画の基本理念「脱炭素を通じて地域の質と魅力を向上させ脱炭素と地域課題の同時解決」の実施に向けて取組んでいく決意を示したものです。

今回の宣言をもって市は、SDGs13番目の目標「気候変動に具体的な対策を」の実施に向けて、日本政府ならびに世界各国と一緒に地球温暖化防止のための取組みを進めていくこととなります。そこで今回のコラムでは、宣言の意図と今後の方向性について簡単に説明したいと思います。

■ゼロカーボン、カーボンニュートラル

先ずは用語の難しさがありません。そもそも「温室効果ガス排出量実質ゼロ」も、なんとなくわかるようでわかりづらい表現です。「温室効果ガスとは?」「実質ゼロ?」「ゼロカーボンとカーボンニュートラルの違いは?」などいろいろな疑問がわいてきます。

温室効果ガスだって、まるで悪者みたいに扱われていますが、決して悪者ではありません。むしろ地球の熱が宇宙に出ていくのを防ぐ大切な役割を果たしています。ただ、温室効果ガスがあまりすぎると、熱が大気圏内にもこもってしまい気

温が上昇します。これが地球温暖化の原因になります。

ゼロカーボンとカーボンニュートラルについては、両者はほぼ同じ意味となります。また、実質ゼロとは温室効果ガスの排出量と吸収量が同じになり差し引きゼロになった状態を言います。

温室効果ガスのうち排出量のもっとも多いのがCO₂で、温室効果ガス全体の約90%になります。だからこそ地球温暖化を防ぐには、CO₂の排出量をコントロールしなければならぬということになっていくわけです。

■待ったなし!地球温暖化対策

地球温暖化の影響は私たちの生活に直結しています。本市でも獲れる魚の種類が変わってきたり、農産品の収穫量や品質に変化がみられたりと、大きな変化があらわれています。

気候も明らかに変化しています。県内では3年連続で大雨災害が発生しました。以前から「梅雨明け頃は前線の活動が活発になり大雨が降る」とされてきましたが、近年はその大雨が半端ない量となつていきます。

これは、中学校理科で習った飽和水蒸気量の問題です。気温が1°C上がる毎に、空気1m³中に含むことのできる水蒸気量は指数関数的に増加します。つまり、地球温暖化によって気温が上昇し、海面水温が高くなったことで空気中に含まれる水蒸気量が右上がりの放物線グラフを描くように増え、その分だけ降雨量も多く

なっているのです。

加えて、最近では梅雨前線が東北付近に停滞し、そこに太平洋高気圧が張り出し、前線を刺激して大雨が降るようになっていきます。以前の梅雨前線は西日本に停滞し、そこに大雨被害を与えていました。ところがここ3年の梅雨末期の前線は秋田から山形にかけて停滞し、両県に大雨災害をもたらしています。昨年7月に市内で発生した大雨災害も明らかに地球温暖化が原因です。

■ゼロカーボンパートナー

宣言にあわせて市内26事業者の皆さんを「にかほ市2050ゼロカーボンパートナー」に認定させていただきました。パートナーになっていただいた事業者の皆さんは、今回の宣言までに市のゼロカーボンに向けた取組みに賛同し、一緒になって地球温暖化対策に取組んでいく意思を示していただいた方々です。引き続きパートナー認定を希望される事業者を募集していますので、さらに多くの皆さんにご検討いただきたいと思ひます。パートナーに認定された事業者の皆さんの名前と具体的な取組みについては市HPなどで紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



にかほ市長
市川雄次

創造を

想像する

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

